

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3597100050		
法人名	特定非営利活動法人 いい日の里		
事業所名	グループホームすこやか		
所在地	山口県大島郡周防大島町大字棕野1338番地5		
自己評価作成日	平成25年12月28日	評価結果市町受理日	平成26年8月11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成26年1月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様のニーズに合った介護を行っています。家族間の連携を大切にします。家庭的で心温まる介護を行っています。併設のデイサービスや小規模多機能サービスの利用者様と交流を持ちたり行事に参加したり他者との交流を持てるようにしています。利用者様の健康を常に考えており、まずは食からという事でバランスの取れた少量で品数の多い副食を色とりどりで提供させて頂いております。真心こもったケアを大切にしています。季節の行事を大切にしています。月1回の誕生会の実施も職員手作りの雰囲気大切に利用者様に喜んで頂けるような心掛けをしています。特に食事は楽しみの一つとして高い評価を頂けるような配慮をしています。利用者様が皆さん食事で元気になられています。見て楽しく、食欲増進できるような多彩な献立を日々考えています。ご家族様からも高い評価を頂いています。レクにも力を入れていけるように努力しています。研修で学んだ知識を生かして喜んで頂けるような配慮をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

かかりつけ医と事業所の連絡窓口を設けておられ、かかりつけ医からの口頭での連絡や連絡票での情報提供の他、電話で連絡を下さるなど事業所とかかりつけ医との関係を築いておられ、利用者が適切な医療が受けられるように支援に取り組んでおられます。朝市で地産地消の新鮮な食材を購入され、季節感のあるバランスのとれた食事を提供しておられ、見た目も食べやすいよう器にもこだわっておられ、盛り付けも工夫されて、食事が楽しみなものになるように支援しておられます。外部研修(レクリエーション研修)で学んだことを活かされ、戦後の青春時代の歌謡曲(青い山脈、リンゴの唄など)を聞いて、利用者が自然に手拍子をされたり、体を動かされたり、口ずさまれて楽しんでおられる他、リラックスできるよう呼吸法を大切にした体操をとり入れられるなど、活躍できる場面づくりや気分転換等の支援に取り組んでおられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員、利用者が一体となって頑張っている。職員会議の開催で自らが作り上げていく理念をもとに意欲を大切にしている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を職員全員でつくり、理事業所内に掲示している。管理者と職員は理念を共有し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	周囲の住民の方々からの理解は得られている。交流の場がなかなか持てないので努力していきたい。	地域のお大師祭り、船祭り、敬老会などの行事に参加している。小学生によるバレエやボランティア(フラダンス)の来訪がある。週1回来訪するパン屋での買い物を楽しんだり、法人のデイサービス利用者との交流、買い物時や散歩時に地域の人と日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	デイサービスや介護相談での支援を周囲に周知しており理解と利用を求めている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価についてはミーティングなどで全職員に周知し実施の意義を理解できた。管理者、計画作成担当者、リーダーで話し合って自己評価をまとめている。	自己評価の意義をミーティングで全職員に説明し、全職員に自己評価をするための書類を配布して、記入してもらい、管理者と計画作成担当者、リーダーで話し合いまとめている。事業所独自の理念の作成、全職員での自己評価への取り組み、運営推進会議のメンバーの拡大、内部研修の実施など評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員・地域の方・地域包括支援センター職員・家族・職員での参加で推進会議を行っており事業所の現状と報告をしている。気をつけるべき改善点等についても細かな話し合いと意見交換が行われている。	新たに、地域住民2名とコンビニエンスストア店長をメンバーに加え、2ヶ月1回開催している。行事や事業所の現状、活動報告などを行い、話し合っている。自治会長からの提案をうけて、災害時の町内一斉放送の拠点として、事業所にスピーカーを設置するなど、意見をサービスの向上に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	指導や声掛け、意見を聞き入れて業務に生かせる様に心掛けている。入所、退所の報告を行う。問題が生じた時は相談と指導を受けている。	町担当課とは運営推進会議の他、電話や出向いて報告したり情報交換をして、協力関係を築くように取り組んでいる。月2回開催の周防大島町ケアマネ協議会で情報交換をしている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	徹底した実践で身体拘束は行っていない。利用者様が安心して過ごせる、安全な環境づくりを大切に考えている。玄関の施錠はしておらず、見守りを常時行っている。	身体拘束についてミーティングで話し合い、職員は理解し拘束や抑制をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックに気づいたら、管理者はその都度注意し、朝礼で再度話し合っている。玄関は施錠はせず、外出に気付いたら職員は寄り添って出かける支援をしている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に利用者の立場になって接している。利用者様の気持ちになって接しており徹底したケアを行うようにしている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員の熟知には達していないので、今後制度についての学びを深め必要な場面で活用できるようにしていきたい。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様やご家族等、十分に納得をした上で契約している		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	受付時に記録、報告等している。苦情の受け止めはできている。会議や朝礼で話し合い反省できるように協力している。	電話や手紙、面会時、運営推進会議時に家族から意見や要望、苦情を聞いている。出た意見はミーティングや朝礼で話し合い、共有して改善に取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回ミーティングで意見、提案を出し検討、納得いく形で終了するように時間を掛けて行っている。	月1回のミーティングで職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、日常の業務の中でも聞いている。その場にいる職員でケアについて話し合い、意見を活かすように工夫している。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の業務にやりがいを持って取り組めるように環境や配慮、整備に努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケアを実践していく中で不十分であると判断した課題を挙げ、検討している。助言や指導を大切に受け止め、働きながら学べるように支援していきたい。	外部研修は情報を提供し、レクリエーション研修や認知症ケア研修などを受講し、受講後は朝礼で復命し、共有している。内部研修は研修計画を立て、テーマを決めて、毎月1回のミーティングで実施している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流や相互訪問等の活動を行っていないため、サービスの質を向上させる為にも今後は取り組んでいきたい。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	話し掛けを続ける。信頼関係を築くようにしている。ニーズの把握に努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者様、ご家族等と連絡を密にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	希望に沿ったプランは立てておりプランをもとにサービス支援を行っている。今後の声にも耳を傾けて進めていきたい。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を楽しんでもらうための対応、優しさケアを最優先としている。共に共感できる事を大切にしたい。(会話での理解)		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様とご家族の不安を取り除くように連絡している。利用者様との交流を持ってほしくご家族へ連絡している。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	人との交流が少なくなっているので、出来るだけ馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援していきたい。施設内での人間関係を円滑にし大切にしていきたいと思う。	家族の面会や知人の来訪、隣接の小規模多機能型居宅介護事業所の利用者との交流、家族の協力を得て外出、外食、墓参り、法事への参加、電話の支援など、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	グループでいつもの人との様子を良く見ている。お互いが気遣いながら接するようにしている		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて利用しやすい状況を作っている。ケアへのサービスで又利用したいと思ってもらえる関係を大切にしたい		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話を持つようにしているので聞き取れるような配慮を行っている。話を必ず聞くようにしておりコミュニケーションを大切にしている。	利用者に関する記録方法を工夫し、介護記録の中に利用者一人ひとりの日常の会話での言葉や様子をそのまま書くようにして希望や意向の把握に努めている困難な場合は、家族等に聞いて、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント状況は利用者様本人やご家族からの聴取等で把握に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日誌などで確認している。希望を取り入れた過ごし方はできていると思う。工夫したやり方、過ごし方は促すようにしている		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネ、看護師等のチームでモニタリングを行い作成するようにしている。今後の改善に繋がるのでモニタリングや会議を増やしていきたいと思う。	利用者を担当する職員の意見や本人の思い、家族の意見、かかりつけ医の意見を参考にして介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリング実施し、状況に変化が生じた時はその都度見直しを行っている。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	引き継ぎなどで共有している。細かな部分への記入をした方が良いので検討しながら試みていきたい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の希望に沿って取り組んでいる。 変化のあるケアも心がけたい。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域全体の安全性の高さにより安心した生活は送れていると思う		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様のかかりつけの病院に通院するようにしている。医師との連携、連絡を継続していきたい。今後も医師からの説明とケアのアドバイスを大切に守ってしていきたい。	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。かかりつけ医とは連絡窓口を設け、対応して、口頭での連絡や連絡表に医師が記載したり、かかりつけ医から電話で連絡が入るなど、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	引き継ぎ等で情報を伝えている。報告、情報等的確に伝えられるよう必ず通院時にメモして職員に通知している。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	これまで入、退院の事例はないが、そうした場合に備えて病院関係者との良好な関係づくりに努めていきたい。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアの実践例がまだないので、希望等あればご本人やご家族の希望を取り入れ、事業所として出来ることを検討し取り組んでいきたい。	重度化や終末期の対応指針があり、本人や家族等に説明し、同意を得ている。希望があれば事業所でできることを検討し、支援に取り組んでいくこととしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	月1ミーティングの際に急変時の対応について研修を行った。全職員が応急手当の方法やスキルを向上させる為今後も研修を重ねていきたい。	ヒヤリハット、事故報告書に記録し、ミーティングで話し合い、法人全体の会議で検討して一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。応急手当や初期対応について毎月のミーティングでテーマに基づいて看護師による研修を実施しているが、全ての職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・すべての職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣の方に声掛けをし、消防訓練を実施した。今後も事故のない体制づくり災害時の避難訓練の実施を行っていきたい	年2回開催している。6月は日中想定で利用者も参加して避難訓練を実施し、もう1回は消防署の協力を得て夜間想定での避難指導をしている。1月2hs、災害時に利用者を安全に避難誘導するにはどうすればよいかについての研修を行っている。	・地域との協力体制の構築
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人ひとりに合った対応に心掛けている。個性を考えた対応を心がけている。	職員は内部研修で一人ひとりの人格の尊重やプライバシーを損ねない言葉かけなどを学び、利用者一人ひとりにあった対応をしている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日中のADLへの働きかけが常に必要な中でその中での希望を見出していく努力を継続していきたいと思う。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の希望に出来るだけ沿うようにしている。ゆっくりと時間をかけて対応していく必要があるので気をつけていきたい。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪の流れや爪切りなど職員全員で支援している。フェイスクアチェックを実施している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	協力しながら働いている。手伝ってもらえる方、意欲的に希望される方に手伝ってもらっている。	食事は隣接する小規模多機能型居宅介護事業所の厨房で作っている。利用者は野菜の皮むき、テーブル拭きなど出来ることを職員と一緒にやっている。利用者の好みを取り入れ、朝市で地産地消の新鮮な食材を購入し、季節感のあるバランスの取れた食事を提供している。週末にはホットプレートを使っておやつを作ったり、誕生日には家族等から宅配便で届くケーキを皆で一緒に楽しむこともある。藁麦屋や喫茶店に出かけたり、弁当持参で花見に出かけるなど工夫して、食事を楽しむことができるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事面でのバランスは充分とれており摂取量も良好である。病状に応じて量や形状も工夫している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯の洗浄、声掛けや介助で施行、状況に応じてうがいも実施して頂いている。表の記入も行っており忘れる事が無いようにしている		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄介助の方は特に注意している。個別支援として対応できている。失禁のある方への対応は特に気を使っている。自尊心を大切にし、優しい促しと誘導に努めている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけや見守りで、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操の時間を必ず取り入れている。便秘対策で動いて頂けるように配慮している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	声掛けや一部介助での入浴が実施できている。温度調整や衣類の選別に気をつけている。拒否あれば日にちを変えるか時間をずらしている。	入浴は9時から16時までの間一人ひとりの希望に合わせて毎日入浴を楽しむことのできる支援をしている。入浴したくない利用者には職員を交替したり、時間帯を変えたり、声かけの工夫をして入浴できるように支援している。併設施設の足湯を利用することもある。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別にて様子観察、昼寝の実施など見守りで対応している。個人の希望を大切にしている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬確認、認知症の利用者様には手に薬をのせて確実に服用できたかまでの確認をしている。安心した状況が保たれている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別的な配慮と全体的な気配りができるように気をつけている。業務内容をうまく配分し実施していけるように配慮していきたい。時間を大切につくる努力をしていきたい。	折り紙、絵カルタ、百人一首の札読み、札取り、トランプ、カードゲーム、習字、語り部、毛糸でトイレトペーパーを包む作品づくり、テレビ視聴、習字、洗濯物干し、花壇の草取り、水やり、月刊誌の購読、CDの視聴(浪曲、演歌)、昔の歌謡曲(青い山脈、リンゴの唄、365歩マーチなど)を聞いて、手拍子をしたり、ともに歌ったりしているなど、張り合いや活躍できる場面づくりの支援をしている。缶詰工場の配慮でみかんの缶詰(ミカンの皮と実の分別)作業を手伝い収益を得て、毎週来所する移動パン屋で自分でパンを買うことを楽しみにしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	週1度買い物に出かけている。併設のデイサービス利用の方との交流はできているが外出も季節と機会を考えながら実施していきたい。	一人ひとりの希望にそって、散歩、月2回の買い物ツアー、大島ふれあいセンターでの花見、棕野海岸で海を眺めたり、戸外に出かけられるように支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	出来るだけ本人希望を聞いているが事業内事務での管理が望ましいので紛失のないように気をつけている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人宛の手紙は手渡し、電話は直接話して頂いている。手紙の代筆も行っている。ご家族には毎月園便りを送付しており近況報告をしている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の草花を生けている。清掃は力を入れて行っている。共有空間の装飾にも気を配り、利用者様が作られた作品や興味のある掲示物を設置している。	共用空間は南の窓から入る陽ざしで明るく、窓から景色が眺めることができ、静かで生活環境にも配慮している。テーブルや椅子、ソファを配置し、利用者の季節の作品を飾り、花を活けて、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所づくりに工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個室、ユニット型であり問題はないと思うが集団生活の大切さも伝えていきたい。ホールでの過ごし方の配慮を行っている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の清掃、環境づくりに気を配り配慮している。好きなものを持ち込まれたり、自由性を大切にしている。物の紛失がないように気をつけ、名前のチェック、衣類の間違いなどがないように細かな配慮を継続していきたい。	ハンガーラック、籐椅子、ソファ、テレビ、月刊雑誌、鏡、化粧品、観葉植物など持ち込み、家族の写真や事業所で作成したおりがみ作品を飾り居心地良く過ごせるように支援している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差もなくフローリングで問題はないと思う。混乱や怪我が無いよう表示等もしている。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホームすこやか

作成日： 平成 26年 8 月 8日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	全ての職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施が十分にできていない	定期的な訓練を行い、すべての職員が応急手当や初期対応の実践力を身につける	事故防止の取り組みや事故発生時に備えるため全職員を対象に1年を通して定期的に訓練を実施する。	1年間を通して
2	36	災害対策に関して地域との協力体制の構築が十分にできていない	災害に備え利用者が避難できる方法を全職員が身につけ、地域との協力体制が構築できる	利用者の安全な避難訓練の定期的な実施。運営推進会議等で災害時の対処について説明をし、理解を得る。地域住民への説明の機会を設け、協力体制を構築できるよう働きかけていく。	1年間を通して
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加すること。